

## 昭和天皇と戦後政治との関わり

2023年9月9日

瀬畑 源(龍谷大)

### 1. 宮内庁長官という職務

- ・宮内庁=皇室関係の国家事務を行う
- 長官…宮内庁の責任者—特に国事行為(首相の任命、法律・条約の公布、栄典授与など)や公的行為(行幸、外国訪問など)を行う際の対応—天皇に政治的な権限はないが、首相・大臣との調整が必要なことも
- 天皇と政治の話をすることが多い—昭和天皇の政治への評価、「象徴」としての対応が「拝謁記」には多数含まれる

### 2. 昭和天皇と共産主義

- ・共産主義勢力への過度の警戒
- 「附和雷同」の国民が、共産主義になびくのではないか?(労働運動、学生運動など)—アジア・太平洋戦争開戦直前の親独伊・反英米と、親ソ・反米の動きが重なる
- 朝鮮戦争の戦況への関心の高さ、再軍備のための憲法改正要求(ソ連は信用ならん)、日米安保を重視
- 一方で国内で保守勢力が割れていることへの嘆き(吉田 VS 反吉田)
- 戦前の政党政治の崩壊と、青年将校の動きがバックラッシュする(戦争論を語りたがる理由)
- 自分の「経験」を絶対視する傾向—人の好き嫌いなども、固定してしまうと動かない

### 3. 田島道治と昭和天皇 <sup>23U</sup> 1948

- ・「君主」としての自覚—政治的に動けない「象徴」であるとわかっているけど…
- もどかしい!—自分の知見から吉田や他の大臣にアドバイスをしたい!—内奏に呼びつけない→でも田島に止められる—田島は象徴天皇制とはなにか良くわかっていた—天皇の政治介入を止める役割
- ・現在も続く内奏—天皇が首相や大臣と何を話しているのかは公文書には残らない—「質問」形式での「御下問」は今でも続いているのではないか?